

## 平成29年度 第3回花見川区支え合いのまち推進協議会議事要旨

日 時 平成30年3月15日(金) 午後2時～午後4時40分  
場 所 花見川保健福祉センター3階大会議室

出席委員数	19名
欠席委員数	6名
オブザーバー	5名
傍聴人	0名
事務局	8名

### 【1】次第

- 1 開会
- 2 議題 (1) 花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況について  
・各社協地区部会の推進状況(27～29年度)  
(2) 花見川区支え合いのまち推進協議会委員任期の変更について  
(3) 生活支援コーディネーターによる地域資源の紹介  
(4) 支え合いのまち千葉推進計画について  
(5) その他
- 3 閉会

### 【2】議事要旨

委員定数25名のうち、6名の欠席を確認し開会した。

事務局より、会議の公開について説明があり、傍聴人の入室、会議録の作成、ホームページ及び推進協だより等への掲載のため、写真撮影、録音を行うことについて、また自治会等を通じ地域住民や公共の場に公開させていただく旨、了承を得た。(今回傍聴人0名。)

#### 議題(1) 花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況について

各社協地区部会長より、資料1をもとに平成27年度から平成29年度の推進状況の説明があった。

#### <質疑応答>

委員 : (A地区部会について)

地区部会が避難所運営委員会を立ち上げるのは難しいのではないかと。実際に災害が起きて避難する場合、地区部会としてどう対応できるか。

委員 : やはり活動主体は自治会になってしまう。社協としては、見守り訓練を行っている。見守りを通常と災害時のみの2つに分けて、災害時に見守って欲しい100人を対象に、災害時に備えて訓練を行っている。

委員 : 各自治会には、市が情報提供している避難者名簿がある。しかし地区部会には情報がない。その中で、災害時に備えた活動を行うのは限界がある。

委員長 : 自治会は住民情報を持っているので自治会がやるべき。

委員 : 自治会が中心で動き、自治会の会議で地区部会も協力するのが大切なのではないか。

委員 : 避難訓練に参加してみて、実際に災害が起きた時に人手不足になることを痛感した。日頃から地域全体で自治会を中心に災害時に備えることが大切である。

委員長 : 見守り高齢者の把握はしているのか。

- 委員：お手上げ方式で見守っている。
- 委員長：お手上げ以外の人は見ないのか。
- 委員：個人情報の関係もありそれ以外の人は、対応が難しい。
- 委員：支援が必要な方は、高齢者だけではない。個人情報で難しいとは思いますが、他のやり方はないのか。
- 委員：いろんなやり方がある。千葉市が基本に作成している支え合いカードを使っている自治会もある。
- これは、いざという時に誰に助けて欲しいのかを事前に聞いて、見守りを民生委員主体で行っている地域もある。
- 委員長：孤独死を出さないための見守りが必要である。

議題（２）花見川区支え合いのまち推進協議会委員任期の変更について  
事務局より、資料２をもとに委員の任期を３年に変更すると説明があった。  
異議なく承認された。

議題（３）生活支援コーディネーターによる地域資源の紹介  
生活支援コーディネーターより地域資源について説明があった。

<質疑応答>

- 委員長：地域資源とはなにか。
- 生活支援コーディネーター：交流の場や通いの場、外出支援、家事支援、見守り、宅配などがある。

議題（４）支え合いの千葉推進計画について  
地域福祉課より、第４期千葉市地域福祉計画について資料３をもとに説明があった。  
※質疑については、主に説明事項の確認であったため、省略。

議題（５）その他  
事務局より、次回は６月の開催であると伝えられ、書類の提出、シンポジウムの紹介があった。

(閉会)

原田委員長が閉会挨拶し、午後４時４０分、花見川区支え合いのまち推進協議会を閉会した。